

《情報公開文書》

血清中免疫複合体解析による電気けいれん療法前後の精神疾患患者の比較解析

研究の概要

【背景】

電気けいれん療法は重症者や緊急時に用いられる治療法で、一定の治療効果が認められています。そのため、電気けいれん療法中の体内の変化を追跡することは、精神疾患の解明に重要と考えられます。一方、最近の研究により脳内炎症が病態に関係していることが分かってきました。この炎症の原因の一つは、生体内の異物（抗原）が免疫複合体を形成することです。そのため、本研究では患者さんの体内での特徴的な変化を免疫複合体解析で調べることが有効と考えられます。

【目的】

本研究では、電気けいれん療法により変化した免疫複合体抗原を特定し、その抗原タンパク質と病態の関連を調べます。

【意義】

精神症状と関連のある自己免疫反応を起こすタンパク質が明らかになることで、精神疾患の病態解明・診断・治療研究に重要な情報が得られる可能性があります。

【方法】

本研究では精神疾患（統合失調症・双極性障害・大うつ病）の電気けいれん療法前後で血液中の抗原タンパク質を比較し、さらに健常者ボランティアさんの血清を免疫複合体解析して、精神疾患患者さんに特徴的で治療前後で変化がある抗原を特定します。また、抗原ならびに免疫複合体量、血清中の全免疫複合体の総量ならびに代謝物量の変化も調べます。

対象となる患者さん

本研究では下記の研究にて採取された方の情報と血液検体を使用します。

「血液を用いた精神疾患における生物学的マーカーの開発に関する研究」（吳医療センター・中国がんセンター倫理審査委員会承認）のうち、ECT治療を受け治療前後で採血を実施された方
「イムノコンプレキソーム解析法の創製とその臨床応用」（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）承認番号26）に健常人として参加された方

研究に用いる試料・情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・「血液を用いた精神疾患における生物学的マーカーの開発に関する研究」

性別、年齢、罹患期間、発症年齢、エピソード数、緊張病、ECT 施術理由、PANSS スコア、HAM-D スコア、CGI-S、ECT の施術回数

- ・「イムノコンプレキソーム解析法の創製とその臨床応用」

性別、年齢

●研究に用いる試料

前研究で採取・収集された血液試料を使い、免疫複合体解析ならびに代謝物測定を実施します。

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

試料・情報の利用開始予定日

本研究は 2024 年 12 月 12 日より「研究に用いる試料・情報」を利用する予定です

あなたの試料・情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2027 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属：長崎大学病院 薬剤部
氏名：大山 要
住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1
電話：095 (819) 7245

試料・情報の管理責任者

長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、試料・情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院薬剤部 大山 要

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095 (819) 7245

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）